

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2794000253		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカークロしばはら・リボン		
所在地	大阪府豊中市柴原町2-7-15		
自己評価作成日	令和元年8月29日	評価結果市町村受理日	平成32年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和元年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ご本人様が入居前の生活スタイルを出来るだけ崩さず、その人らしい生活を送って頂けるように支援します。地域の行事。市が行っている行事に出来るだけ参加し、地域との関わりを大事に生活を支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、現医療法人が前経営法人から建物を譲り受け、平成22年11月に新たに開設したグループホームである。モノレールの最寄駅から徒歩で約5分ほど、主要幹線道路から一筋入った住宅、マンション、畑が混在する地域にある。事業所は、地区社協福祉委員会と密接に連携しているため、地域の様々なボランティア(歌体操、習字、フラワーアレンジメント、フラダンス、民謡舞踊など)の紹介を受けたり、近隣の小学校の合唱団が来所してコーラスを披露してくれたり、毎年10月に開催する事業所の「リボン祭り」に地域の人々を招待したりして、地域の人々との交流が盛んである。また初詣、節分、花見、七夕、紅葉狩り、クリスマスなどの季節行事や誕生日会を各職員が分担して、きめ細かく企画して開催している。利用者にとって楽しみ事が満載で、笑いの絶えない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を朝礼時に唱和し、困った時や困難にぶつかった時に共通認識として持つようにし、そのように努力している。 6カ月に1回の面談で理念共有の状況確認を行っている。また、理念に基づくグループホームの目標を設定している。	職員は毎朝申し送りの後に、法人の理念『『愛』を原点に行動します。『その人』の気持ちになって行動します。『奉仕』の精神をもって行動します。』を全員で唱和して再確認し、日々の実践につなげている。また、事業所の年間目標を「ゲスト様の元気な笑顔、笑い声はスタッフの連携プレーから」と定めて事務所内に掲げ、日々確認して業務に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域より定期的にボランティアの方に来て頂いたり、小学校の合唱団の方に来て頂いたり地域の行事(主に敬老会等)市の行事に参加したりしている。	自治会に加入しているが、活動が不活発なため、地区社協(校区福祉委員会)と密接に連携し、地域のボランティア(歌体操、習字、フラワーアレンジメントなど)を紹介してもらったり、地区の文化祭に利用者の貼り絵などの作品を出品したりしている。9月には、近くの小学校で開催された「敬老の集い」に、職員とともに利用者が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトを2名が受講。職員にも行ったが、玄関にポスターも貼り、依頼があれば出向く予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い。地域の方、市、地域包括等の行政の意見、最近では入居者も参加し、意見を頂き、運営に生かしている。	会議は、奇数月の月末近くの平日の午後に、地域包括支援センター職員、市の介護相談員、民生委員、家族、利用者(2階、3F階交互)と事業所職員(管理者、計画作成担当者、介護職員)が参加して、2階、3階(交互)の共有フロアで開催して、出席者と事業所側と活発に意見交換している。欠席した家族には、会議録を施設便りと共に請求書に入れて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での助言を頂いている。	管理者は、市内の介護保険事業者連絡会の役員や、医師会、歯科医師会、薬剤師会との連絡会のワーキングメンバーを務めている。市の担当職員とは、何かあれば報告・連絡・相談して助言をもらえる密な関係を築いている。また、認知症サポーター講習会の講師を務めたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について勉強会を行っており、現在は身体拘束は行っていません。	運営規程に身体的拘束等の禁止を定め、マニュアルを整備し、身体的拘束等の適正化委員会を3カ月に1回開催し、全職員に毎年研修を行っている。現在、玄関は施錠されておらず、フロア内は自由に行き来できるが、利用者の離脱事故防止のためフロア出入り口は施錠している。また家族の了解を得て、一部の利用者には、夜間の転倒防止のために赤外線感知センサーをして、万全のケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年はまだ行っていませんが、人権について勉強会を行い、権利擁護について個々の職員が考える機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、重要事項に説明・契約の締結を事業所に来所又は訪問させて頂き、時間をとって説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はもちろんの事、ご家族様からの意見を聴取し出来るだけ意見を反映させられるように努めています。	意見を表出できる利用者は一部に限られるので、家族から運営推進会議や来所時に聞くようにしている。家族からは介護の対応、特に転倒の防止に関する要望が多く、職員は互いに声かけをして連携プレーに努めている。また、この夏の散歩時の熱中症への注意喚起の意見があり、水分補給にはいつもより配慮して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長等は年2に2回以上職員との面談の機会を設け、運営に関する意見を聞き、反映に努めている。	職員は、毎月の全体職員会議やフロアー会議で、意見や要望を管理者やリーダーに言う機会があり、介護の相談や提案をしている。また年度初めに各職員が立てた個人目標の達成度を、管理者が個別にヒアリングする面談が年に2回以上あり、職員の要望や悩みなども聞いている。資格取得や年休取得などの要望を実現するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回個人面談を行い、個人の能力等を把握している。それに応じての昇給昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を行っており、職員が向上の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊中市の事業者連絡会に参加し、交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時等聞き取りを行い、出来るだけ不安な事や要望に耳を傾け落ち着いて過ごして頂けるように関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、ご入居後も生活に反映させていくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる情報は共有しご本人、ご家族様と話し合いをし必要な支援を担当のケアマネージャと検討し他のサービスが必要な場合はそこにも繋げます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来ない事はサポートする事を基本に出来るだけご本人様を主体として生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近では家族様とのバーベキューや運営推進会議と一緒に参加する機会を設け家族様と本人が過ごせる機会を設けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部、家族様の協力や馴染みの関係と手紙のやり取りをしたりしている。(一部の入居者様のみ)	利用者の中には、家族と外出して買い物行ったり食事をしたり自宅に帰る人もいるが、これまでの馴染みの理美容に行ったり買い物に行く人はほとんどいない。職員の支援で、友人や知人に年賀状を毎年出している利用者が数名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生活を把握し、席順等も考慮し楽しい雰囲気でも過ごして頂けるようにし難しい時はスタッフが間に入り楽しく会話できるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話連絡や必要に応じて訪問しています。また、退所後に訃報の連絡を頂いた場合は参列させて頂く等の対応もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化していく御本人の要望や意向を受け止めその都度、臨機応変に対応しています。	計画作成担当者は、入居前に自宅や病院に利用者を訪ねて、本人や家族の要望や思いを聞いている。本人に聞くことが困難な場合は家族に、本人のこれまでの生活状況や趣味、食事の好みなど様々なことを詳細に聞いている。入居後は、居室担当介護職員や計画作成担当者が日常のケアの中で声かけし、利用者の要望を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況を把握し、そして過去の暮らしを把握して出来るだけ自身が今までの暮らしを継続できるようにスタッフは努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で一日の過ごし方をアセスメントし夜勤も含め職員全員がトータル的に見えるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室に居室担当を付け、カンファレンスを行い担当者やその他スタッフの意見を聴取、記入してそれに即したケアプランを作成し実行しています。	計画作成担当者は、居室担当者の業務日誌、毎月のモニタリングや看護記録と家族の要望、かかりつけ医の意見を参考に、3カ月をめぐりに管理者、居室担当者、看護師とカンファレンスを行い、ケアプランを見直し作成している。家族には、作成したプランを説明して確認印をもらっている。遠方の家族には、郵送して承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をスタッフで共有し、必要であればカンファレンスを行いその都度変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外泊、外出等家族様の要望に応えられる様に努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店等を把握し出来るだけそこに繋がるように努めています。(カレー屋、ファミレス等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回来られておりそれ以外でも、専門外来に行かれておられる入居者様もおられます。	かかりつけ医は、入居前のかかりつけ医とする利用者以外は、法人のクリニックの医師とし、月2回往診を受けている。医師とは24時間オンコールの体制ができている。専門医の受診は基本的に家族が同行することになっているが、無理な場合は職員が同行支援をしている。歯科は毎週1回、系列の歯科医師の訪問診療と口腔ケアを受けている。日常の看護職員による健康管理を週3回受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居様様のちょっとした変化も看護師に報告し、状態を確認し支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中は入院先の医療機関の相談員と連絡・・・調整を図り、必要に応じて退院前にカンファレンスに参加し早期退院が出来るように働きかけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を定め、ご家族様に説明している。また家族様と話し合いを行い方向性を決め転居も含めて話し合いをしている。	重度化した場合の方針は入居時には説明せず、利用者が重度化した段階で、方針を詳しく口頭で説明している。現在は、看護と介護の体制が整っていないので、看取りは行っていない。重度化した場合は協力病院への入院または系列の介護施設への移転を勧めるなどの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には往診のかかりつけ医と24時間連絡の取れる体制を作り、看護師も急変時には対応できるように体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。設備としてはスプリンクラー、ナースコール、場内放送設備あり。	詳細な避難マニュアルに沿って、夜間想定を含めて年2回消防訓練を実施している。地震などの災害時の緊急連絡網と対応方法も具体的に決めている。災害用の水の蓄えは3800リットルと十二分にあり、おかゆや缶詰など3日分の食料を、屋上の収納庫に用意している。昨年の台風による停電時も、準備していたカセットコンロで温かい食事を提供できた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシーを損ねないように努めている。出来るだけ「さん」付けで呼ぶようにしている。	職員は利用者を尊敬して「ゲスト様」と呼び、愛と奉仕の精神で、明るい笑顔と声かけで支援を行っている。昨年は、虐待防止や身体的拘束排除などの人権問題を学ぶため、市の人権推進委員を通じて依頼した大阪法務局の職員による人権研修を事業所で実施した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人様の希望を聞き自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている日出来ない日がありますが、レクに関しては無理強いをしないように、個人の過ごし方を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人様の希望に沿ったおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けを見て頂いたり、食事を分けて頂いたり、食器を拭いて頂いたり個々に出来る事をして頂いています。(内容によっては食事作りを手伝って頂いたりもしている)	給食業者から運ばれた食材とレシピを用いて、職員が調理し提供している。調理や味付けしたり、おにぎりを作ったり、配膳、下膳する利用者もいる。職員も同じテーブルで同じ食事を一緒に摂り、家庭の食卓風景が見られる。クリスマスなどの行事には特別の食事を手作りしたり、たまに仕出し業者から出前を取って特別料理を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量、水分摂取量を把握し嘔下状態に合わせて刻みやミキサー食の提供等個々に提供方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にうがい、食後に歯磨きを行っています。8割の方が訪問歯科の受診を週1回受けており口腔内のトラブルを回避しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの入居者様がトイレやポータブルトイレでの排泄を行っています。状況に応じて布パンツやパットの種類を変えて快適に過ごして頂けるように努力しています。	職員が排泄パターンを把握して誘導する利用者もいるが、共有トイレで自身で排泄する利用者や、夜間は居室でポータブルトイレで排泄する自立した利用者もいる。昼間は紙パンツやリハビリパンツの利用者がほとんどだが、現在2名は布パンツである。夜間は全員がリハビリパンツである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳やヨーグルトを提供しています。便が出にくい方は個別に牛乳を飲んで頂いたり、運動をして頂くようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴なので基本的に1対1での対応になります。ご本人様の希望も聞きつつ入浴剤を入れたりしています。	浴槽は家庭用だが、風呂場はゆったりとした大きさである。シャワーチェアも用意してある。入浴は週2回、午前中に同性による一人介助を基本として、湯は毎回入れ替えている。利用者は、しょうぶ湯やゆず湯で季節を感じたり、冬場は寒いので、入浴剤を入れて温まっている。入浴拒否をする利用者には、午後の入浴や日を替えるなど柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人、個人の体力や持病に合わせて、その日、その日の体調に応じて休憩をとってもらい無理なく日々を過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては往診時に変更等あった際は理由と目的を記入し情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活歴から個別にホームでの役割をして頂いている。出来る事と興味のある事を出来るだけ繋げて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回以上は外出レクのイベントを設けている。一部の家族様より個別に外出に連れ出して頂いたり、家に戻ったり、墓参りに行ったりされておられる。	日常的に近くの公園に出かけ、花壇や木々の花を見て季節を感じている。春には近くの公園の散歩で桜を楽しみ、初夏には五月山の城跡公園の菖蒲や百合、秋には千里丘陵の紅葉を楽しみに遠出している。近所のカレー専門店や回転ずしで外食することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って立て替え金による買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をかけたとかかってきた電話を取り次いだりしている。今年は、年賀状を出させて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除を行い出来るだけスタッフ全員で環境整備に取り組んでいる。絵画やゲスト様の作品を飾りアットホームなフロアーにしている。	食堂を兼ねるリビングには、大きなガラス戸から明るい陽が差し込み、対面式キッチンからは調理の音が聞こえる。壁面には、季節を感じさせる野菜の貼り絵、利用者の習字作品、かわいい子供服、利用者の行事写真が飾られている。ソファの上にはかわいい幼児の人形が置いてあり、寛げる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを置いたり、日が入る場所に日向ぼっこが出来る場所を作ったり、イスを至る所におき思い思いに過ごせる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様には出来るだけ愛着のあるもの馴染みの物を持って来て頂き、個室は、ご本人様とご家族様と相談して入れ替えや片付けを行っています。	居室の入り口には、ハートの形の造花で装飾された表札があり、引き戸には本人の写真と名前が貼られて、利用者が部屋を間違わないように工夫されている。居室内には、事業所のベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備えられ、利用者は馴染みの家具、テレビ、まくら、布団、ベッドカバーなどを持ち込んで、使いやすい工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには食事のメニューや日付を解る所に記載し掲示している。		